

# CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2011年12月20日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒732-0811 広島市南区段原2-15-5 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/>



## 感情の論理 vol.58 「感情と行動の相互関係」

いよいよ冬期講習が始まります。塾業界の最多忙期に突入します。冬期講習、入試、新学期募集と、中にはゴールデンウィークまで休みなしという方もいらっしゃることでしょう。ただ、塾人の底力を見せる時でもあります。頑張ってください。

人間の脳は不思議な機能を持っているようで、忙しい時ほど優れたアイデアが降ってきたり、業務の処理能力が向上するようです。逆説的に言うと、「いつでもできることは、いつまでもできない」という現象が日常茶飯事に起こります。

塾生の中にも、社会の暗記は「いつでもできる」と思って後回しにしてしまい、受験を目前に控えた今頃になって焦っている生徒がいるのではないのでしょうか。

人は焦ると何から手をつけていいか分からなくなり、結局、何もできずに終わってしまうことがあります。我々が「今やるべきこと」を指し示し、生徒の焦りを取り除いてやることも指導者としての役目です。彼らが最後まで諦めずに取り組めるよう導いて下さい。

塾業界は今、「少子化」「成績中間層の塾離れ」「小学生補習に対するニーズの低下」「長引く不況」等々、逆風の真っ只中にいます。加えて震災の影響、子ども手当の縮小が来春の生徒募集に暗い影を落としています。一方で、中学教科書の改訂(学習量の大幅増)という小さな光も見えているのですが、多くの塾は「今年並みを確保できたら御の字」と考えているのではないのでしょうか。

ところで、「加速成功」の著者である道幸氏は次のように言います。「なぜ、アメリカは月に行けて日本は行けないのかーそれは、アメリカは月に行くと決め、日本は決めなかったからだ」

目標設定の重要さを説明する時に頻繁に使われるフレーズですが、真理を突いています。「去年並で御の字」と考えていると良くて去年並み、たいていは去年を下回ることになります。なぜなら、「去年並で御の字」と考えた瞬間から、思考が停止するからです。脳が去年並を達成する以上の働きをしなくなるからです。

当然、行動も去年並みになってしまいます。結果は…市場が

縮小している分、生徒数も売上も縮小するのは自明の理です。人の行動は感情が支配し、人の感情は行動が規程する…感情と行動は互いに相関関係を持つというのが「感情の論理」の中核です。ならば、例えば「1年後に売上を1.5倍にする」と決断するところから始めることが必要になります。

現在、塾生数が100名で売上が2,000万円の教室があったとします。1.5倍だと3,000万円を目指すことになります。すると、単純に塾生数を150人にしなければならないかと言えば、そうではありません。売上は顧客数×客単価×購買頻度で決まります。それぞれを15%増加させれば、売上は1.5倍になる計算です。他の業種と違い、塾は購買頻度を上げることは難しいのですが、購買頻度を無視したとしても顧客数と客単価を23%向上させれば目標は達成されます。塾生数を50名増やすのは至難の業ですが、23人なら出来そうな気がしてきます。顧客単価も年間4万6千円増やせばOKです。教科書改訂年度はカリキュラムの見直しが必須であると同時に、授業料を改定する数少ないチャンスです。理社の大幅な学習量増を背景に授業時間の延長、個別指導塾なら受講科目の増加を促す必要が出てきます。それは同時に、顧客単価を増やすことにつながります。

以上の計算はモデルケースですが、要は、目標が決まれば自動的に達成方法、手段を考えるように脳が働き始めるのです。既に来年度の経営戦略を構築されている塾はいいのですが、まだの方は是非、明確な目標を設定した上で戦略構築を練ってください。

蛇足ですが、戦略を構築する時は具体的分野に分けて行なうことです。単に「売上を1.5倍に増やすこと」だけを想定して考えるよりも、そのための「価格戦略」「コミュニケーション戦略」「マネジメント戦略」等に分け、さらに細分化して考えることによって自塾の問題点が明らかになり、その解決法も見えてきます。アバウトな問いにはアバウトな答が、具体的な問いには具体的な答が導き出されるのも、人間の脳の特徴です。

### 第10回 中学校の新しい学習指導要領 ～理科～

今年の漢字は「絆」。改めて、人は助け合って生きていくものだ  
だと認識させられる一年でした。まもなく冬休みです。外は寒い  
ですが、心の中の温かさは忘れずにいきたいものです。

さて、各出版社の中学生用の新しい教科書はようやく今月に  
ほぼ出揃い、来年 4/1 の使用に向けて、徐々にその全貌が明らか  
になってきています。全教科を通して、今回の改訂で目立つ  
ポイントは「スパイラル学習」と「考える力」の2点だと感じました。  
復習となるワンポイントが随所に散りばめられ、テーマに基づい  
て考察させる単元が数多くあります。あとはどう授業の展開をし  
ていくかが、これからのキーとなりそうです。

では、中学理科の説明をいたします。まずは、東京書籍の中  
学理科の指導内容を以下、記載します。高校理科になると「物理」  
「化学」「生物」「地学」の4分野に分かれます。中学理科では  
それらを「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の4分野を柱  
とした内容の系統で表します。

#### <各学年の中学理科の主な指導内容>

##### ～中1～

- ・エネルギー分野…光と音  
いろいろな力の世界（圧力、水圧、Pa の計算）
- ・粒子分野…気体の性質  
水溶液の性質（物質の溶解、溶解度と再結晶）  
状態変化（熱、融点、沸点）
- ・生命分野…花、葉、茎、根のつくりとはたらき  
種子植物、裸子植物、生物の観察
- ・地球分野…火山活動と火成岩、地震

##### ～中2～

- ・エネルギー分野…電流（ $\Omega$ の法則、磁界、電磁誘導、発電、  
静電気、真空放電、電流の正体）
- ・粒子分野…化学変化（原子、分子、化合、酸化と還元）  
化学変化と物質の質量（質量保存の法則）
- ・生命分野…細胞、動物のからだのつくりとはたらき（刺激と反応）  
脊椎動物、無脊椎動物、生物の変遷と進化
- ・地球分野…天気、気象観測、前線と天気の変化  
霧や雲の発生

##### ～中3～

- ・エネルギー分野…物体のいろいろな運動（運動の速さと向き）  
力（つり合い、合成、分解）  
エネルギーと仕事（仕事の計算、力学的エネルギー、  
エネルギーの交換、資源、放射線）  
科学技術の発展、自然環境
- ・粒子分野…水溶液とイオン（電気伝導性、原子の成り立ちとイオン）  
酸、アルカリとイオン（中和、塩）、化学変化と電池
- ・生命分野…細胞分裂、遺伝子（DNA）、食物連鎖、  
自然環境の調査と保全、自然の恵みと災害
- ・地球分野…惑星と恒星、太陽、宇宙  
地球の運動と天体の動き（日周運動、年周運動、自転と公転）  
月の運動（月食、日食）、自然界のつり合い、自然環境

中学理科内容別系統表（東京書籍）は次のURLからプリント  
アウトできます↓

<http://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/chu24/subject/rika/pamphlet/rika2.pdf>  
こちらはHPで公表されていますので配布可能です。ぜひ保護者  
説明会などでご利用ください。

中学理科内容見本（啓林館）は次のURLの「電子ブックを開く」  
をクリックしてください。↓

[http://www.shinko-keirin.co.jp/keirinkan/topics/2011/data/rika\\_c3/index.html](http://www.shinko-keirin.co.jp/keirinkan/topics/2011/data/rika_c3/index.html)

中学理科では計算問題が増加しています。圧力、 $\Omega$ の法則、熱  
量など公式を活用した計算が多く見受けられますので、正確に使  
えるようにしましょう。また、実験結果の考察を考えさせ、レポー  
トにまとめるという単元もあります。単に結果を知っていればよい  
というわけではなく、なぜそうなるのかを考えさせる方針をとられ  
ていますので、学習塾としても暗記重視に偏りすぎないように気  
をつけたいところです。おそらく公立高校入試でも「書かせる」  
問題が増えてくと予想できます。対策をしっかり練って、説明す  
る力を向上させていくことも忘れずにしたいところです。

まもなく冬期講習です。寒さに負けないように、体調万全で入  
試に臨めるようにいたしましょう。

次回は、中学社会・国語・英語の文系教科の説明をしていき  
ます。では、また。。。

### ■オーナーが交替してもブランドは残るという発想

一塾を売却して引退して如何ですか？

「自分の考えがほぼ間違えていなかったと思っています。

毎週授業にも入っており、名目は会長ですが、実質的には時間講師として充実した毎日です。

僕は塾を高く売って悠々自適に引退したいとは考えていなかった。自分ができなくなったら、誰か後輩が引き継いでくれて、その人の名前の塾にしてもらっても構わなかった、しかし・・・地元の若手経営者の集まりに呼ばれて講演した時、名前も顔も忘れていた教え子に声をかけられた。

先生、私に資本参加させてください・・・と言われた。ああ、いいよ・・・と気軽に答えたのだが、彼は本気であり、後日詳細な提案書を持って現れたんだ。

僕の株のほとんどを買い取った上で、僕には会長という名目を与え、大好きな授業ももたせてくれると約束してくれた。理想的じゃないか・・・苦勞をかけた妻と二人でゴルフやったり遠くに美味しいものを食べに行ったりできる時間が増える。教え子の彼の人間性も経営力も色んな人が太鼓判を押してくれたので、一週間たたないうちにOKと返事した」

### ■塾は『何でも屋』

一塾の地域社会への貢献についてどうお考えですか？

「そんな大それたこと考えたことないし、勉強で困っている人を助けたいだけです。僕は、塾は『何でも屋』だと思っただけです。子供が勉強で困っていたらみてあげる、親が進学のことや子供の将来のことなどで困っていたら相談に乗る・・・最近多かったのは生活についての相談でしたねえ、不況ですからね、こころも。

僕なんか誰にもしゃべる気がないし、人の話を聞くのは苦じゃないしね。そういうのを子供たちが親に話し、親も僕に会って、つい相談したくなるらしい。

江戸時代は、寺子屋といって、寺でやったり長屋の大家の一角でやったりしていたらしいけど、要するに世話役ってことかな、地域の。僕は違ったけど、これから塾をする人はそう

いう心掛けが大事なのかな・・・お互い様だから、できるだけ世話をするという気持ちだね」

### ■小中高一貫指導に加えて幼児教育も

一継承されてから塾はどう変わりましたか？

「彼は自分の塾経営の構想をちゃんと持っていたようで、すぐに高校部の充実を図った。僕と一緒に映像授業を配信するFC本部に見学に行き、即日加盟を決めてきました。大学受験はこういうものに叶わない。生徒もやる気になるし、あとは現場のマネージメントをどうするかだけ。箱はどうにでもなる。地方は広くても家賃安いしね。前から要望されていたものなので、中三からの継続はいいです。僕は中三の英語を主に担当しているけど、時々高校部の担当者に来てもらって、高校になったらどういう勉強をするのか、大学受験でどこを狙えばよいのかななどを話してもらいます。みんな真剣に聞いていますよ。

それと、幼児教育・・・これはこの地域では無縁のものと思ってきましたが、そうでもないらしい。彼が導入したシステムと指導する女性講師を見ていると、とても質が高いし、この地域にもそういう教育をお願いしたいという層が意外にも多い。やってもいないのに駄目だと思っていたら新しいビジネスはできませんね・・・いやこれには一本取られた(笑)」

**睡眠不足の子供たち**

日本だけでなく、高度経済成長してきた中国やスパルタ式の勉強で有名な韓国などの子供たちの睡眠不足による影響は深刻です。睡眠時間の減少は、成長の遅れ、注意や集中力の低下、眠気、易疲労感などをもたらします。また、眠りたいのに眠れないという睡眠障害に陥ることもあり、登校してから学校で眠くて仕方がない子が保健室のベッドで寝ているという状況も増えています。

都内のある学校では、それまで健康な子が突然『過呼吸』で倒れたり、『睡眠時無呼吸症候群』になったりしており、学校側が適切な睡眠時間の確保を家庭に呼びかけました。

背景には、子供たちの生活が『夜型』にシフトしていることがあるようです。塾に行く子は最終的な帰宅時間が遅く、夕食も遅めで、学校の宿題に加えて塾の宿題、受験生はさらに受験勉強が深夜まで続きます。塾に行っていない子どもでも様々な習い事をして帰宅時間や夕食の時間が遅かったり、チャットやゲームに夢中で就寝時間が遅くなることも稀ではありません。

現代社会が24時間化するとともに、子供の生活も夜10時以降に就寝するケースが全体の半数を超えました。また、学齢が小中高と上がるにしたがってベッドに入る時間も遅くなっているのです。

**偏食時代**

睡眠時間が遅くなると、どうしても食生活も不規則になり、睡眠不足と並行して、ホルモンバランスの崩れや偏食による肥満化、さらには糖尿病や高血圧、生活習慣病の進行などに至るケースも出てきます。

最悪の場合、合併症を発症し、高齢者と同じような頻尿や抑鬱症、そして神経炎の痛みなどに悩まされることもあります。

睡眠不足のために心理的なストレスで悩み、不登校になる子どもも増えています。不登校になるとさらに食生活が乱れ、糖分の多いお菓子が主食になるなど過度な偏食に陥る子どもも出てきます。

「子供だからそのうち治る・・・」という考え方は甘いのです。

**農薬に放射能…**

「福島の米をはじめ露地ものの野菜や柿（干し柿）、椎茸など全て出荷停止または自粛だ」と言うと、香港から帰国した知人が首を横に振って次のように言いました。

「放射能も危ないけど、中国の農業野菜も怖い。香港でも、地元の人を買わないものをちゃんと確認して野菜を買うようにしている」  
経済が急成長し、空母をはじめ軍力も増強している中国では、農薬を使って広大な土地で野菜をつくり、生産工場で働く労働力は人件費の安い東南アジア各国から「輸入」して利益率を高めていることです。

情報があとから届いて、「アレはダメだった」ではなく、子供たちのことを考えて、より害の少ない食材を吟味して使うという『食育予防』をしていく必要があります。